

国際大学の教育課程の編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

I. 全学共通

1. 言語の壁を超えて多様な環境でグローバル・リーダとして活躍できる人材を育成するため、全ての授業および研究指導を国際共通語である英語で行う。
2. 全ての授業科目において授業の達成目標、教授法、成績評価方法、事前事後学修の内容や学位授与の方針との関連性等を詳細に記載したシラバスを作成し、シラバスに沿った授業を行う。
3. 各学生がもつ多様な研究課題に対して少人数制または個別にきめ細やかな履修／研究指導を行い、学生の学びを促進させ、評価基準を満たす学位論文または研究レポートを標準修業年限内に提出できるよう支援する。

II. 修士課程共通

1. 各研究科において、それぞれの教育課程に「指定必修科目」「選択必修科目」「自由選択科目」の3つの履修区分を置き、各教育課程に属するすべての学生が修得すべき基礎科目を「指定必修科目」、多様な専門科目の中で学生が優先的に履修すべき科目を「選択必修科目」、その他の科目を「自由選択科目」とする体系的なカリキュラムを提供する。
2. 学生による全科目を対象としたコース・エバリュエーション（各コース終了時評価アンケート）と修了時サーベイ（修了予定者向けアンケート）の結果を授業内容の改善や学修成果の評価に効果的に活用し、教育課程の内容の充実と学修成果の向上を図る。

III 国際関係学研究科 修士課程

1. 多様な価値観への理解とグローバルな視野を持ち、政治・経済・経営分野における広範囲な課題に対する問題発掘能力・分析能力・問題解決能力を有する有為な人材を養成するため、各分野の幅広い知識、分析手法、理論の修得を可能とする専門科目を開講するとともに、多国籍・多文化の学生構成の強みを生かす教授法を取り入れ、理論に基づいた実践的で政策指向的な教育を提供する。
2. ディプロマ・ポリシーで学位授与の条件として掲げる「知識」、「スキル」、「学術的態度」を学生に修得させるため、専門科目を順次性に配慮し適切に組み合わせることで、カリキュラムを効果的に編成する。学位ごとの提供科目の特徴は以下のとおりである。

<修士（国際関係学）>

1) 国際関係学プログラム

国際関係学プログラムの内、修士（国際関係学）の学位プログラムでは、国際関係学に於ける基礎的な諸事実、諸理論、諸規範、諸方法論に関するコースを提供している。これらのコースを履修することで、学生は複雑でダイナミックな国際関係諸問題についての基礎的な「知識」を獲得し、こうした諸問題を批判的に分析する「スキル」を修得し、これらの諸問題に適切に対処する際に要求される「学術的態度」を修得することができる。

2) 日本・グローバル開発学プログラム（外交政策）

日本・グローバル開発学プログラム（外交政策）では、修士（国際関係学）の指定必修科目と日本・グローバル開発学プログラムが指定する日本関連選択必修科目を合わせて履修することによって、同学位取得に求められる「知識」「スキル」「学術的態度」とともに日本の開発・発展過程から得られる普遍的な経験則を修得することができる。

<修士（政治学）>

国際関係学プログラムの内、修士（政治学）の学位プログラムでは、政治学下位諸分野に渡る幅

広いコース、政治学分野に於ける主題的あるいは地域的な特定問題についてのコース、そして政治学で用いられる様々な方法論についてのコースを提供している。これらのコースを履修することで、学生は政治学の基礎的な「知識」を獲得し、複雑な政治学的諸問題を理解し分析する「スキル」を修得し、これらの諸問題に適切に対処する際に要求される「学術的態度」を修得することができる。

<修士（国際開発学）>

1) 国際開発学プログラム

国際開発学プログラムの内、修士（国際開発学）の学位プログラムでは、開発課題を分析するために必要な知識を修得するため、経済学の基礎科目を提供すると共に、開発問題を分析するスキルを身につけるための応用科目を、また、開発問題を創造的に分析する学術的態度を身につけるための実践的研究指導をそれぞれ提供する。

2) 日本・グローバル開発学プログラム（開発政策）

日本・グローバル開発学プログラム（開発政策）では、修士（国際開発学）の指定必修科目と日本・グローバル開発学プログラムが指定する日本関連選択必修科目を合わせて履修することによって、同学位取得に求められる「知識」「スキル」「学術的態度」とともに日本の開発・発展過程から得られる普遍的な経験則を修得することができる。

<修士（経済学）>

1) 国際開発学プログラム

国際開発学プログラムの内、修士（経済学）の学位プログラムでは、経済学の理論と実践の知識を修得するため、経済学の基礎科目を提供すると共に、経済学を経済・社会問題に応用するスキルを身につけるための応用科目を、そして論理的・批判的思考を身につけるための実践的研究指導をそれぞれ提供する。

2) 日本・グローバル開発学プログラム（経済政策）

日本・グローバル開発学プログラム（経済政策）では、修士（経済学）の指定必修科目と日本・グローバル開発学プログラムが指定する日本関連選択必修科目を合わせて履修することによって、同学位取得に求められる「知識」「スキル」「学術的態度」とともに日本の開発・発展過程から得られる普遍的な経験則を修得することができる。

<修士（公共経営学）>

1) 公共経営・政策分析プログラム

公共経営・政策分析プログラムの内、修士（公共経営学）の学位プログラムでは、国や地方政府の基本的な役割や責任、公共政策過程における重要な段階といった基本的事項についての知識を修得するため、「公共組織経営」、「行政学」、「公共政策プロセス」等の必修科目を提供する。また、必修科目や「リサーチ方法論」等の方法論の科目履修を通じて、学術研究を理解するスキルや文章作成能力の修得を目指す。さらに、必修科目や選択科目の履修を通じて、公共政策、公共経営に係る分析に貢献する心構えの修得を促す。

2) 日本・グローバル開発学プログラム（公共経営）

日本・グローバル開発学プログラム（公共経営）では、修士（公共経営学）の指定必修科目と日本・グローバル開発学プログラムが指定する日本関連選択必修科目を合わせて履修することによって、同学位取得に求められる「知識」「スキル」「学術的態度」とともに日本の開発・発展過程から得られる普遍的な経験則を修得することができる。

<修士（公共政策学）>

公共経営・政策分析プログラムの内、修士（公共政策学）の学位プログラムでは、公共政策学の基礎的な理論や公共政策学の研究で使用されている研究手法、公共政策における重要な段階等、基本的事項についての知識を修得するため、「政策分析入門」、「行政学」、「公共政策プロセス」等の必修科目を提供する。また、必修科目や「リサーチ方法論」、「事例研究手法」といった方法論の科目の履修を通じて、学術研究を批判的に検討するスキル、データ分析能力、政策提言を行うスキルの修得を目指す。さらに、必修科目や選択科目の履修を通じて、学際的な立場から公共政策過程を分析する心構え、自主的に研究を遂行する心構え等の学術的態度の修得を促す。

<修士（国際公共政策）>

修士（国際公共政策）の学位プログラム（国際公共政策プログラム）では、国際関係学と公共政策に関する基礎的な理論、規範及び様々な政策オプションに関するコース、及び国際社会が直面している諸問題に関係するコースを提供する。これらは、基本コア・コース、ディシプリナリー・コアコース、及び選択コースとして提供される。これらのコースを履修することで、学生は、国際問題についての基本的な知識に加え、国際問題・公共政策の諸問題を批判的に分析するためのスキルを獲得し、かつ、これらの諸問題に適切に対処するために必要な学術的態度を涵養することができる